

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系 教授

氏 名 釜 田 聡

研究期間 平成27年度～平成28年度

研究費 1,200,000 円

研究プロジェクトの名称	「グローバルキャリア教育」を基軸にしたアクティブラーニングの開発 ー国際交流インストラクター事業を中心にー
研究プロジェクトの概要	1 研究目的 本研究の目的は、次の2点である。 一つは、平成28年度からの大学改革に伴う新コース（グローバル・ICT・学習研究）の新設科目（国際理解・地域教育デザイン）の試行である。 もう一つは、「グローバルキャリア教育」を基軸としたアクティブラーニングの開発を大学教員と大学院生、附属中学校教員・上越地域の教員で行い、地域教育実践の質的向上に寄与することである。 2 研究の特色 本研究の学術的な特色は次の2点である。 (1) 新コース（グローバル・ICT・学習研究）の新設科目（国際理解・地域教育デザイン）の試行を行うことである。新設科目（国際理解・地域教育デザイン）では「国際交流インストラクター事業」の参画を通じて、グローバルマインドをもつ教員の養成を目指している。本研究は、新設科目の授業運営を円滑にし、新設コースの中核を担う授業科目として磨き上げるところに特色がある。 (2) 本研究では「グローバルキャリア教育を基軸にしたアクティブラーニング」の内実を理論的・実証的・実践的に検討し、実践上の課題として抽出・可視化することで、「グローバルキャリア教育を基軸にしたアクティブラーニング」のプログラムをいち早く開発する。「計画」が指摘する危機的な状況は、まさに持続発展教育とグローバル化に対応する国際理解教育のさらなる充実が求められる。本研究は、そうした喫緊の教育課題に正対し取り組むところにその特色がある。 3 研究の意義 本研究の意義は次の2点である。 (1) 新コース（グローバル・ICT・学習研究）の新設科目（国際理解・地域教育デザイン）の試行を行うことで、グローバルマインドをもつ教員の養成を目指すにふさわしい実践上の知見を導出することができる。このことは、平成28年度に開設される新設科目の授業運営を円滑に進め、新設コースの中核を担うにふさわしい授業科目として位置付くことにつながる。 (2) 「グローバルキャリア教育を基軸にしたアクティブラーニング」の内実を検討し具体的なプログラムと教材をいち早く具現化し教育現場に提案することである。 大学・附属・地域連携型のプログラムを開発することである。研究組織として、大学教員と大学院生、附属中学校の教員、上越地域の教員（元附属中学校教員）のネットワークを有効に活用し、大学・附属・上越地域連携型のカリキュラム・教材を開発する。

成 果 の 概 要

平成 27 年度

1 事業概要

(1)実施校

直江津中等教育学校	9 月 14 日(月)	2 年生 3 クラス	122 名
柏崎市立北鯖石小学校	9 月 30 日(水)	5.6 年生	44 名
	10 月 7 日(水)	5 年生	20 名
糸魚川市立能生中学校	9 月 29 日(火)	2 年生 3 クラス	78 名

(2)大学側スタッフ

- ・国際交流推進センター担当 村椿・瀧本
- ・教員 釜田聡・田島弘司・角谷詩織
- ・参加学生 大学院 M1・9 名 学部 1 年生 8 名

(3)募集

学部生：釜田が担当する授業（韓国事情）にて PR する。90 名の受講者のうち 8 名希望する。大学院生：釜田研究室の学生（M1）に声をかけ PR する。9 名の希望あり。

(4)指導・支援体制

予算面と交通手段の手配等の事務手続きは国際交流推進センターが担当した。学生の指導・支援は教員が行った。当日の引率は教員が行った（日程調整の上）。教室は 1 室確保し、ミーティングや資料等の保管場所とした。時間：指導・支援時間、活動時間は特定の時間を確保していない。学生と指導者と時間を調整して実施した。

2 成果と課題

実質的に再スタートとなったが、大学院生のグループは現職教員がいたことがあり、ワークショップの企画から実施まで順調に進んだ。充実した活動であったことから、来年度も参加したいという希望をもつ院生がいる。継続性の点から大切にしたい。

一方で、学部生は、熱意はあるものの全員が集まる時間を捻出できず、共通理解を図ることに困難があった（学生の自主的な活動：学びのひろばとの競合）。また、国際理解教育や開発教育などを十分に理解していないことからワークショップの質（内容と方法）について改善の余地があった。

2016 年度は、大学院の授業科目に「国際理科・地域教育デザイン」という授業科目が位置付く。そこでは、国際交流インストラクター事業への参画を目指した授業を行う予定である。学部の指導・運営体制については、再検討を行う。新年度は、ワークショップのさらなる充実と安定した運営体制の構築を目指したい。

平成 28 年度

1 事業の概要

(1)実施校

9/16(金)	糸魚川市立木浦小学校
3・4 年生対象	テーマ：世界の現実「ごみって本当にいらぬもの？」
5・6 年生対象	テーマ：世界の現実「私たちの普通って世界共通？」
9/26(月)	上越市立牧小学校
9/29(木)	新潟市立鎧郷小学校
4 年生対象	テーマ：世界の現実「水から見える世界」

	9/30(金) 柏崎市立二田小学校 5年生対象 テーマ：世界の不平等「あたりまえ」 10/30(日) 大学祭の開催に合わせて大学内で実施 大学祭参加の児童・生徒が対象 テーマ：異文化理解「あなたのメガネはどんな眼鏡？」 2/6(月) 柏崎市立北鯖石小学校 テーマ：「あなたのメガネはどんな眼鏡？」 (2) 大学スタッフ ・国際交流推進センター担当 藍木 瀧本 ・教員 釜田聡 田島弘司 角谷詩織 原瑞穂 ・参加学生 大学院生 15 名（昨年 9 名） 学部 1 年生 1 名（昨年 8 名） 計 16 名 (3) 募集方法 学部生：釜田が担当する授業（韓国事情）にて PR する。90 名の受講者のうち 1 名希望。大学院生：「国際理解・地域教育デザイン」の授業履修者 8 名＋学内公募 7 名 (4) 指導・支援体制 予算面と交通手段の手配等の事務手続きは国際交流推進センターが担当した。学生の指導・支援は教員が行った。当日の引率は教員が行った（日程調整の上）。教室は 1 室確保し、ミーティングや資料等の保管場所とした。時間：指導・支援時間、大学院「国際理解・地域教育デザイン」と研究室単位のゼミの時間、公募学生；活動時間は特定の時間を確保していない。学生と指導者と時間を調整した。 2 今年度の成果と課題 (1) 成果 再スタート 2 年目。昨年度の経験者と現職教員がいたグループは、ワークショップの企画から実施まで順調に進み、充実した活動となった。 (2) 課題 (1) 以外の学生は、ワークショップの初歩から習得する必要があった。大学院生であっても、教育現場での実践経験が少ない学生が数ヶ月でワークショップを企画・立案し、実践するまでには課題は少なくない。また、学部生は 1 名のみの参加であった。募集方法や指導体制については今後の課題としたい。また、新潟で開催される各種研修会や情報交換会等については、ほとんど参加できなかった。新年度は、ワークショップのさらなる充実と安定した運営体制の構築を目指したい。
研究成果の発表状況	平成 27 年度・平成 28 年度 新潟県国際交流インストラクター事業報告書（2016, 2017） 新潟県国際交流協会 HP（2016, 2017） 日本国際理解教育学会研究大会ポスターセッション発表（2016. 6）